

岡山市水道事業総合基本計画(アクアプラン 2017)
アクションプラン後期編(令和 4 年度～令和 8 年度)

令和 5 年度取組予定

水道局では、平成 29 年に水道事業の中長期的な事業運営の方針を示した「岡山市水道事業総合基本計画アクアプラン 2017」を策定しました。
現在は、後期 5 年間の具体的実行計画である「アクションプラン後期編(令和 4 年度～令和 8 年度)」に基づき事業を推進しています。
アクションプランの進捗状況及び取組予定・結果については、適宜まとまり次第公表しており、本資料では令和 5 年度の取組予定を報告します。

岡山市水道事業総合基本計画

アクアプラン 2017

《平成 29 年度～令和 8 年度》

成果・課題の検証

取組・目標値の追加変更

アクションプラン前期編
(平成 29～令和 3 年度)

アクションプラン後期編
(令和 4～8 年度)

基本理念と4つの基本施策



基本理念である「ゆるぎない安心と信頼の追求」の達成に向け、4つの基本施策に基づき事業を推進しています。

事業費の進捗状況

(単位：百万円)

	R5	後期編(R4~R8)		
	予算額	総事業費	累計額 (R4~R5)	進捗率 (%)
安全でおいしい水の追求	154	1,001	188	18.8%
水の安定供給と強靭性の確保	8,577	41,594	17,270	41.5%
満足度を高めるサービスの充実	24	206	71	34.5%
持続可能な水道システムの構築	123	515	226	43.9%
合計	8,878	43,316	17,755	41.0%

※累計額及び進捗率は、令和4年度及び令和5年度予算額の合計値で算出



安全でおいしい水の追求



主要事業	清浄、豊富な原水の確保	700万円
事業方針	安全でおいしい水道水を送り続けるために、清浄で豊富な原水を確保します。 流域自治体や関係者と連携して、水源の大部分を依存する旭川源流地域での水源及び地下水源を保全します。	

・水源林事業の継続実施

▶ 旭川水源地域（鏡野町、新庄村）での水源林の保育・整備

間伐：5.0ha

評価指標	R5目標値
水源林の間伐面積	5.0ha

○間伐

混み過ぎた林の木の間引くこと。残す木の生育を助け、光が射し込み、下草などが茂るため、水源かん養機能や土砂流出防止機能が高くなる



水源林事業（間伐作業）

主要事業	水質管理体制の充実	1億4,700万円
事業方針	岡山市水安全計画を運用し、水源から蛇口までのあらゆる危害要因に対応した総合的な水質管理を行います。異臭味被害や新たな水源汚染物質などの水質上の課題に対応し、安全でおいしい水をお客さまにお届けするため最適な処理を追求します。	

・水質検査体制の充実

▶ 水質検査機器の更新整備

ページ・トラップーガスクロマトグラフ

ー質量分析計（PT-GCMS）

▶ 三野浄水場後次亜塩注入設備ほか設置工事

○PT-GCMS

かび臭物質及び揮発性有機化合物の多成分同時分析ができる測定機器



PT-GCMS



水の安定供給と強靱性の確保



主要事業	浄水・配水施設の計画的更新と耐震化 22億4,200万円
事業方針	更新時期を迎える浄水・配水施設について、アセットマネジメント手法を用いて事業費の平準化に努めながら、維持補修による機能回復と更新による機能向上を計画的に実施し、併せて耐震化を進めます。また、水需要に応じた施設の再編を進めます。

・浄水施設の計画的更新と耐震化

▶ 三野浄水場脱水施設更新

(令和2～5年度 4か年事業)

○脱水施設

取水した原水を浄水処理する過程で取り除かれた河川中の濁り（土砂）などの沈でん物を、機械で圧力をかけて脱水する施設。脱水処理された浄水発生土は「おかやま産土」の名称で園芸用土として販売するとともに、セメント材等の原料としてリサイクル率100%を達成している。



三野浄水場新脱水機更新

・電気、機械設備の計画的更新

▶ 旭東浄水場受配電及び回転制御設備更新

(令和3～5年度 3か年事業) など

評価指標	R5目標値
電気・機械設備の更新事業数	31か所



旭東浄水場受配電設備

・浄水施設の再編

▶ 紫外線処理設備設置(上工水共用化関連)

(令和3～5年度 3か年事業)

▶ 瀬戸調整池築造及びその他工事

(令和3～5年度 3か年事業)

▶ 大内加圧ポンプ場及び電気計装設備工事

○紫外線処理設備

クリプトスポリジウム等の耐塩素性病原生物に作用し感染力を失わせる設備



紫外線処理施設(矢原浄水場)



水の安定供給と強靱性の確保



主要事業	水道管路の計画的更新と耐震化 54億1,500万円
事業方針	約4,400km 布設されている水道管路を計画的に更新し、併せて耐震化を進めます。更新・耐震化にあたっては、点検、維持管理を強化し、施設の長寿命化を図りながら水道管路システム全体の中での役割、重要度、災害発生時の市民への影響等から優先順位を定めて計画的に進めます。

・老朽管の更新と管路の耐震化

- ▶ 当新田線 北区青江地内～南区泉田地内
口径600～150mmの配水管布設（令和4～6年度 3か年事業）
- ▶ 約32kmの水道管の布設・更新
うち老朽管更新 約17km

評価指標	R5目標値
老朽管更新延長	155km



耐震管布設工事

・災害時拠点施設への水道管の耐震化

- ▶ 管路耐震化を進める（8施設完了予定）

評価指標	R5目標値
耐震確保拠点施設数	36施設

○災害時拠点施設
負傷者の治療を行う医療施設、災害対策本部となる公共施設や広域避難場所など災害時に拠点となる施設

これらの取組により管路耐震化の指標値が向上

評価指標	R5目標値
基幹管路(口径400mm以上)耐震適合率 ○耐震適合管とは、耐震管（接合部分が離脱しない構造となっている管）及び良質地盤において耐震性があると評価できる管	53.9%
管路耐震管率	21.1%

・維持管理業務の強化

- ▶ 弁栓類、橋梁添架管の計画的点検
- ▶ ドローン撮影による水管橋点検

評価指標	R5目標値
基幹管路弁類の点検数	240か所
水管橋・添架管の点検数	40か所



ドローン撮影による点検



水の安定供給と強靱性の確保



主要事業 災害対策の推進 6億9,300万円

事業方針 南海トラフ巨大地震等の災害に備え、必要な水道水が確保できるように施設の耐震化以外にもハード面での整備を進めます。

・ 停電対策

- ▶ 山浦浄水場非常用発電機設置

評価指標	R5目標値
非常用発電機による停電時の給水カバー率	78.2%



非常用発電機（妹尾加圧ポンプ場）

・ 浸水対策

- ▶ 牟佐浄水場浸水対策工事

評価指標	R5目標値
浄水場浸水対策数	7か所



止水板の設置（三野浄水場）

・ 配水管網小ブロック化の推進

- ▶ 小ブロック化形成に向けた工事

評価指標	R5目標値
市街地の小ブロック化数	50か所

○小ブロック化
配水区域を小規模に分割して管理することで災害や事故時の断水区域を最小限に抑えるとともに、早期復旧にも寄与する

主要事業 危機管理体制の充実 100万円

事業方針 地震、台風、集中豪雨などの自然災害や水質事故、機器の故障などの非常事態が発生した際に、迅速に給水及び復旧を行えるように緊急時の対応力を高めます。

・ 緊急時対応力の強化

- ▶ 災害対策訓練の実施
- ▶ 非常用飲料水袋等の購入

評価指標	R5目標値
災害対策訓練実施数	4回



災害対策訓練
（給水基地で給水車への充水訓練）



満足度を高めるサービスの充実



主要事業	お客様の利便性の向上 1,500万円
事業方針	お客様の利便性と満足度を高めるため、各種サービスの充実を図るほか、新たなサービスの研究・検討を行い、お客様の視点に立ったサービスの提供に努めます。

・お客様の利便性の向上

- ▶ クレジットカード払いの継続と利用促進

主要事業	お客さまとの意識の共有 900万円
事業方針	水道水のおいしさと安全性、施設・管路の更新需要や災害対策など、水道事業への理解と関心を高めるため、お客さまとのコミュニケーションをさらに深めます。

・広報活動の継続、拡充

- ▶ 水道週間行事の実施
- ▶ 水道記念館を活用した広報イベントの開催
昭和60年に開館した水道記念館の累計来館者数が30万人に達することを記念して式典を実施

評価指標	R5目標値
水道記念館来館者数	15,000人



岡山市水道記念館

- ▶ 小学校、公民館等での出前講座

評価指標	R5目標値
出前講座実施回数	20回以上



小学校出前講座

・お客さまとの協働活動の推進

- ▶ ボランティアや民間企業等との協働事業

評価指標	R5目標値
協働事業実施回数	3回



主要事業	経営基盤の強化
事業方針	健全経営を維持しつつ、必要な事務事業を実施するには、限られた収入を有効に活用することが極めて重要です。また、将来世代へも安全・安心な水道水をお届けしていく上で、財政基盤の安定化は欠かせません。引き続きあらゆる効率化策を模索しつつ、経営基盤の強化に努めます。

・経営の効率化

- ▶ 大内浄水場の受水切替にあたり需要に合った施設整備を実施

主要事業	組織づくりと職員の能力向上 1,000万円
事業方針	めまぐるしく変化する社会情勢及び複雑、多様化するお客さまニーズに迅速かつ的確に対応できる組織づくりを進めるとともに、職員個々の能力を高めることで、効率的な事業運営を実現します。

・研修の充実と人材育成

- ▶ 局内技術研修
応急給水研修、維持管理研修、中級維持管理研修等を実施
- ▶ 局外技術研修
外部機関のデジタル人材育成を目的とした研修へ職員を積極的に派遣



応急給水研修
(消火栓から給水車への充水)



主要事業	環境負荷の低減 1億1,300万円
事業方針	水道事業は、“原料”となる水や、浄水処理、配水の過程で使用する電力など、資源・エネルギーを大量に使用し、環境に大きな負荷をかける事業であることから、率先して環境負荷の低減に取り組めます。また、水道水を無駄なく使用できるように漏水防止事業を推進する等、貴重な資源の有効利用にも努めます。

・水道施設の省エネルギー化

- ▶ ポンプ設備を高効率機器に更新

評価指標	R5目標値
省エネルギー機器の導入率	40.0%



ポンプ設備の更新
(上土田加圧ポンプ場)

・水の有効利用

- ▶ 漏水防止事業の実施
- ▶ 衛星画像解析による漏水検知の試行

評価指標	R5目標値
有効率	93.8%



漏水調査

○有効率

有効水量とは、メーターで計量された水量又は使用者に到達したと認められる水量であり、主には配水量から漏水量を除いた水量

・温室効果ガス排出量の削減

- ▶ 再生可能エネルギー由来の電力の購入

評価指標	R5目標値
基準年度(H25)に対する温室効果ガス排出量削減率	△26.0%

- ▶ 太陽光発電によるPPA（電力購入契約）モデルの契約と運用の開始

○PPA（Power Purchase Agreement）

PPAとは、発電事業者と需要家の間で締結する電力購入契約のこと。

